



THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
 宣教100～110周年標語
 감사의 백년, 소망의 백년
 感謝の百年、希望の百年
 (데살로니가전서 5:18)

発行所 **福音新聞社** (1部100円)
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 ☎03-3202-5398
 発行人/金 武士・編集人/洪 性完
 fukuinshinbun@kccj.jp (福音新聞)
 info@kccj.jp (総会事務局)

2013年 復活節説教

今日のトマス (ヨハネによる福音書 20:19-29)



金武士牧師(総会長、大阪西成教会)

イエス・キリストの復活は、キリスト教の根幹にかかわる事実であり、真理であります。他の宗教もすぐれた倫理的教えをたくさん持っています。しかし、明確に個人個人の復活を根本的な真理としてとらえているのは、キリスト教だけです。イエス・キリストの復活こそ、死の悲しみに打ち勝つ唯一の力であります。

ところで、イエスの12弟子のひとりであったトマスにとっては、イースター(復活節)の次の日曜日は、特別な日となります。それはその日にトマスが、イエスは主であり神であり、死者の中からよみがえられたことを確かに信じることができたからでした。トマスにとっては、イースターの次の日曜日こそ、イースターの真の意味を持つ日となりました。

トマスの疑いのすべての問題は、彼が復活の朝、他の弟子たちと一緒にいなかったことから起こります。おそらくトマスはイエスの逮捕の直後、身の危険を感じ、どこかに身を隠していたのでしょう。

とても率直な性格の持ち主だったらしいトマス(ヨハネ14:5)は、信仰の確信にまで至れない多くのクリスチャンの代弁者であるとも言えるでしょう。彼は全く信じ切ることができず、かといって自分の不信仰も言い表せない多くのキリスト教信仰者を代表して語る者であります。

イエスの復活に関する多くの証言が、他の弟子たちによってなされていました。エマオから戻って来た二人の弟子たち、マグダラのマリアやそのほかの弟子たち。多くの人々が主の復活を証言し合っていました。

彼らは復活した主イエスが、自分たちに「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」(ヨハネ20:21)と語られたことを証ししていました。しかしトマスにはそれらの証言が信じられません。

「八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいた。」(ヨハネ20:26)。どうして主イエスは1週間待たれたのでしょうか。主は弟子たちに、週の他の日ではなく、日曜日に礼拝を守るべきことを教えるため次の日曜日まで待たれたのだろうか。

とにかくその1週間はトマスにとってどうしても必要な時間でした。その1週間仲間の弟子たちと共に過ごす中で、確かに彼らに何かが起こったことに気がきます。

トマスは、イエスが本当によみがえったという事実以外には、彼らの内に起こった変化を説明することができませんでした。トマスが彼らの生活の中に見出した変化は、イエスの復活が単なる幻や夢ではないことを認めさせるのに十分でした。

何人もの人が単なる幻や夢だけで、現実の非常な恐れからいつまでも解放され続けることはあり得ないからです。彼らは本当に平安を持っていました。彼らは本当に希望に満ちていました。本当に確信を持っていました。トマスはついに、ほとんどイエスの復活を信じざるを得なくなりました。しかしそれでも完全に信じ切ることはできなかったのです。彼はいわば、霊的な意味で極限の状態に追い込まれてゆく。

ヨハネ20:26は、「トマスも一緒にいた」と言うより、「彼らがトマスと一緒にいてあげた」と言うべきでしょう。彼らはトマスのように疑い深い兄弟を受け入れ、一緒にいてあげた、ということなのでしょう。彼らはトマスのあからさまな疑いと声を出して表明された不信仰にも関わらず、トマスを裁きませんでした。彼らはむしろトマスに深い思いやりを抱き、信仰の兄弟として受け入れました。その結果トマスはついにイエスと出会うのです。

もし他の弟子たちが、疑いに苦しむトマスの真実の心を受け入れていなかったら、彼はイエスがご自身を再び弟子たちに現わされた時、その場におれなかったでしょう。それと同時に、もし彼らとその人生観に対する根本的な変化を示すことがなかったら、トマスはそのとても危険な場所に留まり続けることもなかったでしょう。

ヨハネ20章27節は、25節でトマスが要求したこととほぼ逐一の繰り返しであります。イエスはトマスを厳しく叱責しても当然な場面で、実に優しくお答えになっています。ちょうどあの、イエスを知らない裏切ったペトロに対してそうされたように。「信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」イエスのこの言葉を聞いたとき、トマスは、「わたしの主、わたしの神よ」と叫びます。再びの復活のイエスの顕現が、トマスの信仰にとって決定的なものとなりました。彼はそれまでに十分な証言を聞いていました。しかし彼には、その真理を見るようにして知ることが必要だったのです。この出来事は、神の直接のお働きなしには誰も確信を持つことができないことを表わしています。(2面に→)

神との人格的な関係が、私たちの信仰にとってなくてはならないものなのです。ところで、この話はここで終わりません。もしここで終わってしまったら、それは単にトマスの個人的な信仰の体験に過ぎなくなります。

この物語の最も大切なポイントは、29節の主イエスの御言葉にあります。イエスはトマスにこう言われます。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」(20:29)。ヨハネによる福音書は、紀元1世紀の終わりごろに書かれました。その福音書を読む信仰者の群れはすでに新しい世代にとって代わられていました。時の流れはその信仰の共同体から、マリアのように、「私は主を見た」と言える世代の人々を消し去ってしまっていたのです。

このテキストの真の関心は、それらの、もはやイエスの十字架の傷跡に自分の肉の指や手で触ることのできない新しい時代の信仰者たちにあったのです。ヨハネ17:20で、イエスはこのように祈っておられます。「また、彼らのためだけでなく、彼らの言葉によってわたしを信じる人々のためにも、お願いします。」この祈りを通して私たちは、今日の聖書のみことばが、「今日のトマス」たちへのメッセージであることがわかります。

教会の交わりは、多くのトマスたちを励まし、彼らに必要な信仰の確信を与え続けて来ました。教会の信仰の真実の交わりは、生ける復活の主に出会うチャンスを彼らに与えることができるのです。もし私たちの教会の交わりが、聖霊によって清められ、熱くされ真実のものとなされるなら、私たちは、今も疑いさ迷う多くのトマスを確認に導くことができるのです。

第52回定期総会 日程

第51回総会期第四回常任委員会は、第52回定期総会 日程及び会場確定いたしました。とりあえず、案内いたします。今後、より詳細な案内をお知らせするようにします。

※在日大韓基督教会規則 第3章 第3条4, 総代旅費 (総代、準総代の交通費宿泊費は各地方会が負担し、女性会、青年会の代表はその機関が負担する。)

主題：聖霊によって証しする教会 (ローマ9:1)
日程：2013年10月14日(月)11:00 ~
16日(水)15:00
会場：在日大韓基督教会 名古屋教会

<関西地方会> 新年査経会 大阪北部教会・京都南部教会で開催



2013年 関西地方会 新年査経会が 伝道部 (部長:金鐘賢牧師) 主催で 1月12日(土) 부터 14日(月) 까지 大阪地域은 大阪北部教会에서 京都地域은 京都南部教会에서 각각 開催되었다. 講師는 姜聲鳳牧師 (일산새중앙교회) 로 大韓예수교長老會 (合同) 總會 復興師會 代表會長이며, 基督教教育和 老人福祉를 專攻하였다. 姜牧師는 성경을 多讀하여 알기 쉽게 愛讀할 수 있도록 動機附與를 하였다.

첫 集會는 12日(土) 午後7時 大阪北部教会에서 崔亨喆牧師의 司會로 開催되었다. 두 번째 集會는 13日(主日) 午後3時부터 各教会가 連合으로 모여서 恩惠를 나누었으며 関西聖歌隊連合會가 讚揚으로 하나님께 榮光을 돌렸다.

14日(月) 午後2時부터는 京都南部教会에서 教役者會 主催로 朴成均牧師의 司會로 教役者와 師母 約30名이 모여 教役者會를 가졌다. 이어서 午後7時부터의 京都地域 集會는 京都南部教会에서 李教錫牧師의 司會로 開催되었다.

今番 聖會는 새해를 시작하는 関西地方會 各 教会가 먼저 하나님의 말씀으로 깊은 恩惠를 누리고 한 해를 忠實하게 살고자 결심하며 함께 祈禱하는 恩惠의 時間이었다. 査経會를 爲해서 大阪北部教会와 京都南部教会가 場所를 提供하고 礼拝를 準備해 주었으며 여러 牧會者와 信徒들이 祈禱와 讚揚, 伴奏, 通訳, 案内 등으로 奉仕하였다.

앞으로도 各 教会가 連合하여 伝道와 祈禱와 말씀으로 恩惠 받는 일에 힘쓰며, 聖經을 愛讀하면서 말씀에 能通하며, 말씀에 順從하여 하나님께 榮光을 돌리는 関西地方會가 되어 가기를 바란다. (報告: 崔亨喆)

在日同胞文化の創造と多文化共生社会を目指して2006年4月25日、創立100周年を迎えました。



- ◆東京で一番安く便利な宿泊研修施設(ホテル):フロントは日・韓・英語を対応、24時間サービス。10名様から200名様の会議及び宿泊研修(50名様)も可能。
- ◆スペースワイホール:220席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに最適
- ◆韓国文化(チャング・カヤグム・舞踊)教室・韓国語講座・各種子どもクラス
- ◆YMCA アジア語学院(日本語学校) ※会員及び教職者割引有

(税込み)	平日	休・休前日
シングル	¥6,300	¥5,040
ツイン	¥11,550	¥9,240
トリプル	¥14,490	¥11,592
朝食 ¥200	カルピックッパ、コムタン、ユッケジャン、韓定食、洋食(全メニューコーヒー付き)	

在日本韓国 YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/>
東京韓国 YMCA アジア青少年センター 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町 2-5-5 TEL 03-3233-0611 FAX 03-3233-0633
関西韓国 YMCA アジア青少年センター 〒537-0025 大阪市東成区中道 3-14-15 TEL 06-6981-0781 FAX 06-6981-0782

＜全国青年連合会＞ 第 13 回 青年のための研修会開催

去る 2 月 10 日(主)～11 日(月)、大阪教会にて「第 13 回青年のための研修会」が行われた。関東、中部、関西、西部の全国から約 30 名の青年が集い、共に濃く恵みに満ちた一泊二日を過ごした。例年に比べて全体的な人数は少なかったが、高校生や初参加者が非常に多く、参加者全員が信仰と絆を深め合うことができた。

今年度の主題は、「連帯をもって」(副題:「キリスト教を携えて「私」から「私たち」へ」)で、プログラムのスケジュールを一新し、高誠伝道師(大阪教会)による開会礼拝の後、交わりの時を持った。1 日目のメイン講師は、野田沢牧師(学生キリスト教友愛会(SCF)主事)による講演であった。

野田牧師は、自分が歩んで来たこれまでの信仰生活を振り返りながら、青年のつながりについて気さくに、しかし熱く語った。講演後は、「私が望む・思う・現実のイエス様、教会、救い」って何だろうという題で、活発に語り合った。



翌日、皆で讃美歌を歌って 2 日目のプログラムを迎え、代表の金在源青年による自己紹介を兼ねた証が行われた。その後のグループ別の分かち合いでは個人とキリスト教の関係について改めて考え、言葉にし合う光景が見られた。その後は各グループに分かれて、学んだこと、考えたことを全体で発表し合った後、中江洋一牧師(広島教会)による開会礼拝で研修会を終了した。

このように全国の青年が一所に集合すると話せてしまうのは、やはり青年の集いが持つ不思議なパワーのように感じた。昨年度に引き続き場所を提供した大阪教会、KCC に感謝するとともに、いつも青年を支えてくださる全国の信徒の皆様、牧師に心から感謝する。(報告:崔恵理)

豊かな味、豊かな心。

妻家房
SAIKABO

代表取締役 呉永錫 (東京希望キリスト教会 長老)

四谷本店: 東京都新宿区四谷 3-10-25 Tel. 03-3354-0100

＜総会神学校＞ 第 14 回 卒業式・入学式挙行



3 月 12 日(火) 午前 11 時より在日総会神学校の第 14 回卒業式および入学式が西新井教会の礼拝堂で挙行された。今回の卒業生は 1 名で、福岡教会に所属している権寧勲氏である。

権氏は、すでに韓国で神学校教育を受け、伝道師として働いていたが、日本宣教にたいする熱意から、福岡教会に仕えながら、1 年間の再教育をへて、今年の総会の伝道師考試に臨むことになった。今後の働きが期待される。

また入学生も 1 名であり、大阪教会所属の宣榮伊氏である。大阪の関西聖書神学院を卒業し、今回、正式に総会の伝道師をめざし、入学にいたった。韓国にはすでに成人の二人の娘さんがいるが、単身で神学校の寄宿舎に入り、今後 2 年間の神学の学びにいそむことになる。よき主の働き人となるように祈ってもらいたい。

式は千相鉉牧師(札幌教会)によって進行し、卒業生でもある韓在文牧師(水戸教会)の祈り、総会長の金武士牧師(大阪西成教会)の力強い説教、校長である鄭然元牧師(大阪教会)の卒業・入学にたいする訓辞があった。

また、当日、出席できなかった理事長、林英宰長老からは卒業生にたいして贈物があった。

さらに今回、神学校で開催されていた「宣教師・神学生研修会」に参加していた他神学校に通っている総会神学生たちの祝歌があった。

総会を代表して、副総会長・趙重来牧師(船橋教会)、全国教会女性連合会の会長である金貞姫勲士(東京教会)、日本キリスト教会神学校の校長である三好明牧師(志木伝道所)からの暖かい励ましの祝辞があり、かつて神学校の理事長をしておられた金君植名誉牧師(東京教会)の祝福でもって、恵みに満ちた卒業式・入学式を終えた。

午餐は、西新井教会の女性会が奉仕してくれ、式に華をそえてくれた。心から感謝したい。

(報告:教務・韓聖炫)

〈全国女性連合会・関西社会部〉 電話相談セッション 公開講座

「教会でセクシュアル・ハラスメントが起きないために」

全国教会女性連合会が行っている「電話相談セッション」では、月に一度の割合で心のケア公開講座を開催している。2012年最後の講座は関西地方会社会部との共催で、「教会でセクシュアル・ハラスメントが起きないために」という課題を取り上げ、11月30日（金）午後7～9時、大阪教会小礼拝堂で行った。参加者22名のうち男性が6名で、数年来の公開講座の中では最多であった。

公開講座は崔春子牧師（関西地方会社会部部長）の祈禱で始まり、林芳子長老（大阪教会）から2002年に起こった上町教会牧師による事件に関するレポートが行われた。被害女性たちはすでに警察、地方会の牧師などに訴えていたが、当時関西地方会女性部部長と関西地方教会女性連合会の会長を兼務していた林長老にも相談があったため、林長老と金必順牧師（当時、大阪教会副牧師）が訴えを聞いて、関西地方会任職委員会に女性部からの真相解明のための緊急動議案を提出し、これが採択された。ただちに「上町教会に関する特別委員会」が構成され、被害者と加害者双方の聞き取り調査を行った。すでに10年が経過し、出席者の中には事件を初めて知った者もいたが、迅速な対応により解決への道のりを辿ることができたことは、不幸中の幸いであったと感じた。

林長老のレポートを受けて、フェミニストカウンセラーの川喜田好恵講師が、ハラスメントの基本的な考え方、構造、対応などについて語った。その中でもハラスメントの構造についてのくぐり、実際にあった事件の背景と重なり、深く考えさせられた。

レポートと講義を受けた後、短時間ではあったが参加者から「今の総会には牧師を崇拝する傾向があると思う」「加害牧師は総会を免職にはなったが、いまだに近くで牧師をしているというのがショックだ。牧会を続けられないような処置はできないのか」「解決は十分ではなかった」「回を重ねてこのような学びをしてほしい」など、様々な意見が出された。

また、このようなハラスメントが起こった場合に訴える相談窓口がないという問題が指摘され、早急に窓口を設置する必要性が訴えられた。また、事件当時は「性差別等問題特別委員会」があって問題の早期解決への助けとなったが、2005年の第48回定期総会における機構改革のために委員会は解消されて、働きを社会委員会が担うことになったが、取り組みがなされていないことも指摘された。

現代社会において企業や学校など組織においてセクシュアル・ハラスメントへの対策を行うことは義務であり、男女共同参画社会を実現するための基本条件である。あらゆるハラスメントの起こらない体質をめざしていく教会こそが、マイノリティー性を特質として標榜するKCCJのあるべき姿ではないだろうか。引き続きこのような学びが、各地方会でなされることを願っている。

（報告：朴栄子）

〈西部地方会 女性連合会〉 会長会議・一日研修会開催



西部地方教会女性連合会主催による「2013年度会長会議・一日研修会」が、2月26日（火）、神戸教会にて開催され、7教会より23名が出席して行われた。開会礼拝は、崔美恵子副会長の司会により始まり、韓世一牧師（神戸教会）より、「主は喜ばれること」（マタイ26：6～13）と題するメッセージがあった。

会長会議では、李炫知会長の挨拶と、7教会の各女性会会長より活動報告があった。それぞれ人数や状況も異なるが、どの女性会も教会において大切な役割を担い活動しており、女性会不要論が言われる中、女性会の必要性を強く思った。昼食は、神戸教会女性会の心のこもったおいしい料理を共にいただいた。

午後からは、朴英子副書記の司会で、一日研修会が開会された。講師は、姜貞淑師母（浪速教会）で、「母の祈り」と題する講演があった。日本に居住する韓国人信徒の宣教の為、家族4人で渡日してからの苦労の中、祈りを通して神の導きがあったことを話された。また、宣教の難しさに加え、師母としての働きの中、母として子供達を導く為に十分とはいえ生活の中で、祈ることで導き、恵みを与えられた喜びを語られた。全てを益として下さる神に感謝し、祈りの大切さを話された。

（報告：賓景淑書記）

福音新聞原稿募集

- ・内容：各報告、証し、説教、寄稿、自由投稿等
 - ・対象：在日大韓基督教会所属の全信徒
 - ・言語：韓・日語（得意な言語をお願いします。）
 - ・写真：2～3枚程度（添付ファイル）
 - ・期間：年中（締め切り：毎月20日）
 - ・送信先：fukuinshinbun@kccj.jp
shinacho2003@daum.net
- *文章は、wordファイルをお願いします。

福音新聞社 編集部

〈関東地方会〉 諸職修練会 浪速教会 金鐘賢牧師が講師に

지난 2월 17일 (주일) 오후 4시 30분부터 관동지방회 동경교회에서는 교육부 주최로 2013년도 제직수련회가 개최되었다. 강사는 1997년부터 오오사카에서 작은 자들과 버려져 가는 사람들과 함께 작은 아파트에서 공동생활을 하면서 교회를 개척하여 홈리스 선교 사역을 감당하면서 그들이 예수를 영접하여 세례를 받고 헌신자가 되어 교회건축까지 하게 된 김종현목사(관서지방회 전 지방회장, 나니와교회)였다.

먼저 조영석목사(교육부장, 반석교회)의 사회로 찬송을 부른 뒤에 한성현목사(관동지방회장, 니시아라이교회)가 개회기도를 하였다. 이어서 김목사는 [믿음으로 사는 사람](창세기 22:7-14)이라는 주제로 제직들의 헌신과 봉사도 중요하지만 가장 중요한 것은 믿음이라고 강조하면서 아브라함의 믿음을 조명하면서 홈리스 선교를 하게 된 동기와 과정 그리고 실천과 결과, 이어서 각 교회에서의 제직들의 역할에 대하여 역설하였다.



김목사는 [모든 것을 주님에게 맡기고 주님을 따르는 순례자의 삶이 중요하므로 아브라함이 본토 친척 아버 집을 떠났듯이 떠나고 내려 놓는 믿음이 중요하다]고 강조한 후에 조지 물러의 사역 원칙을 인용하면서 <내일의 양식이 없어도 오늘 있는 것으로 구제하기> <당장 물질이 없을 때는 기도하기> <재정이 적자가 되더라도 급식을 위하여 돈은 빌리지 않기>를 결단하게 된 배경을 설명하였다.

또한 청소년기의 이삭이 노인이 된 아버지 아브라함의 신앙을 보고 결박과 죽음에도 순종하였듯이 부모와 제직들은 신앙을 계승하는 것이 가장 소중한 일이며, 모든 그리스도인들은 신앙을 계승할 의무가 있다고 강조하였다. 그러면 모든 것을 준비하여 주시는 여호와 이레의 축복이 임한다는 것이다.

마지막으로 김종현 목사의 폐회기도와 함께 동경교회에서 새롭게 권사로 선출된 직분자들을 비롯한 여러 봉사자들이 준비한 저녁을 먹으면서 교제한 후에 모든 순서를 마쳤다. 이러한 사역은 재일 대한기독교회 뿐만 아니라 일본 선교와 전도에 대한 사명을 가지고 있는 모든 사람들과 교회에게 새로운 모델과 도전이 되는 귀중한 사역이라고 할 수 있다. (보고: 편집부)

〈全国女性連合会〉 第 14 回 女性のための聖書セミナー開催



全国女性会が主催する第 14 回聖書セミナーが、2月 21 日(木) ~ 22 日(金)、大分県にある杉の井ホテルと別府教会にて開催された。主題を「もっとも小さい者に」、副題を「女性であること、信じること、生きること」とし、講師は谷本仰牧師(日本バプテスト連盟・南小倉バプテスト教会牧師)であった。

開会礼拝では、李惠蘭牧師から「愛するということ」という題で「愛することは生きるためである。永遠の命を得るためにはお互いに愛しなければならない」というメッセージがあった。講演 I では、創世記 1:26 - 27 と創世記 2:18 - 25 を取り上げ、「わたし(たち)は人間であり、だからこそわたし(たち)は対話する!」ということを学んだ。

講演 II では、ヨハネ 11:17 - 44 が取り上げられ、多様な視点から聖書を読み、考えることを学んだ。その後、10 グループに分かれて、マタイ 25:31 - 46 を読み、分かち合う時間をもった。

谷本仰牧師は、日本音楽療法学会認定音楽療法士であり、ヴァイオリン弾き、歌うたいとして年間約 160 回の演奏を行う音楽家でもあるため、講演の中間にヴァイオリン演奏をしてくださり、100 名余りの参加者の心が癒される時間となった。

食後の交流会では、それぞれの地方会の報告にあわせ、特に今回のセミナーのために尽力を尽くした西南地方教会女性連合会の韓国舞踊のもてなしなど、一人ひとりの顔の見える楽しい交わりの時をもった。セミナーの締めくくりには、辛治善牧師(別府教会)から「弱者を用いられる神様」という題で閉会礼拝のメッセージがなされ、在日大韓基督教会のために、弱い私たちを用いてくださる神様に感謝して熱い合心祈禱の時間で聖書セミナーを終えた。

その後、別府教会に赴き信徒の皆さんの愛のこもったもてなしの昼食をいただいた。今回の聖書セミナーには例年以上に多くの女性たちが参加し、講師を含む男性牧師 5 名の参加もあり、み言葉によって明日を生きる知恵が与えられたことを深く感謝するものである。(報告: 宋福姫)

〈関東地方会〉西新井教会 再度、郡山へ炊き出し奉仕を



関東地方会社会部がこれまで毎月、被災地への炊き出し奉仕を担当してきたが、2月で地方会としての任務を終えることになった。しかし、個教会の奉仕は継続して今後も続く予定である。3月は西新井教会女性会12名が郡山伝道所と共に奉仕することになった。場所は郡山市緑ヶ丘仮設住宅(福島県富岡町の約160世帯)である。今回も総会の社会委員会から交通費を補助していただき感謝である。

3月14日(木)早朝、車二台のワゴン車で教会を出発し、郡山市にある緑ヶ丘応急仮設住宅で郡山伝道所(朴正根牧師)および今回は「総会宣教師・神学生研修会」のメンバー13名とも合流した。研修会は関東地方の各教会を訪問している最中であつた。仮設住宅の皆さんは、私たちのことを覚えておられ、うれしかった。



自治会長に挨拶をし、奉仕にとりかかった。少し風が強かったが、ガスの火が消えないように工夫をしながら昼食の準備をした。メニューは「トック」であり、それにキムチ、のりを付け足した。韓国風の雑煮ということで非常に喜ばれた。平日でもあり来られた方はお年寄りの方が多かったが、お盆をもってきて取りに来られる人も多かった。

集会室では讃美の奉仕や、郡山伝道所の信徒による韓国舞踊の時間もあった。富岡町は福島第一原発の付近にある町だが、今後まだ家に帰れる見通しが無いということである。仮設住宅での生活が2年間さらに延長されたことも聞かされた。短い交流時間ではあつたが、最後には皆で神さまの憐れみと恵みを請いもとめ共に祈った。またの再会を約束しながら帰路についたが、今回も奉仕した女性会のメンバー12名全員がむしろ励まされ恵みをいただいた、よき奉仕の一日であつた。

(報告：西新井教会、韓聖炫牧師)

〈中部地方会〉信徒合同研修会 愛知県愛知健康プラザで開催

지난 3월 19일 (화), 20일 (수) 양일간 중부지방회에서는 지방회와 지방회 여성연합회 공동주최로 신도합동연수회가 아이치현 아이치 건강센터에서 은혜롭게 개최되었다.

이번 연수회는 〈성령이 인도하시는 교회 봉사〉라는 주제로 열렸는데 강사는 조경렬목사 (한국, 아현감리교회담임)가 세 번에 걸친 강의를 통하여 성심성의로 봉사해 주었다.

먼저 개최예배는 중부지방회 여성연합회 회장인 김갑분권사 (토요하시교회)의 사회로 시작되어, 〈영적인 교회봉사 - 마르다와 마리아의 경우〉라는 제목으로 김성제목사 (나고야교회)가 설교를 하였다.



조목사는 세 번에 걸친 주제강연을 하였는데, 첫 번째 강의는 〈나를 충성되이 여겨〉였으며, 두 번째는 〈예수님의 마음〉, 세 번째는 〈섬김의 실천〉이었다. 매 강연마다 성경을 공부하며 은혜롭게 말씀을 들었다. 강연 후에는 분단토의를 하면서 강사인 조목사와의 질문과 답변 형식으로 교제의 시간을 가지므로 더욱 구체적으로 말씀을 나누고 적용하는 방법을 나누게 되었다.

폐회는 중부지방회 여성연합회 부회장인 정혜자권사 (나고야교회)의 사회로 시작되어, 〈헌신과 봉사의 신비〉라는 제목으로 김인과목사 (기후교회)의 설교로 마쳤다.



금번 연수회는 여름 같은 날씨 속에서 숙박을 한 50명 중에 어린이가 10명이나 참가하여 성령이 인도하시는 교회 봉사를 배움과 동시에 적용과 실천과 연결되는 귀한 시간이 되어 하나님의 은혜중에 성황리에 마치게 되었다.

(보고 : 최화식)

創世記連続講解 (19)

尹宗銀 牧師
(横浜教会名誉牧師)



創世記 35 章

創世記 35 章の総主題は、『ヤコブがベテルに立ち帰る』である。

- ① 1-8 節：ヤコブがベテル〔神の家〕に立ち帰る。
- ② 9-15 節：神が現れて祝福する。
- ③ 16-20 節：ベニヤミンの出生とラケルの死。
- ④ 21-22 節：ルベン〔Reuben〕が不倫の罪悪の行為。
- ⑤ 23-29 節：ヤコブの 12 人の息子たちとイサクの死別。

本章は、ヤコブがベテルに移住した時からイサクの死に至るまでの記事である。ヤコブが故郷から家出した時は杖一本をもって出ていったが (32:10)、今は富める者になって帰って来た。第一の恐怖の的であったエサウにも無事に対面できて安心する事が出来る。

人間は、このように安心な時はわれを忘れがちである。この時、神は現れて過去の約束を再認識させるようにして、ベテルに立ち戻って神にいけにえを献げるようにした。なぜならば、神は彼がベテルに帰って来て誓願するのを望んでいたからである (28:20-22)。初めからこの約束を信じてベテルに帰って来たならば、前章であったような断腸の惨めな事件に出会わなかったであろう。

ヤコブがベテルに帰ってくるために、今まで腐敗した家庭を肅清する必要があった。偶像を捨てて自身を聖別することによって準備した。これが信仰の正しい路線に立ち帰る者の必須条件である。神は、御自分に寄り頼む者に祝福するのである。

ヤコブはシケムの復讐を恐れていたが、神は彼を守られた。彼が神の命令によってベテルに帰郷するや否や母リベカ〔Rebekah〕の乳母が死亡し、ラケル〔Rachel〕がベニヤミン〔Benjamin〕を出産すると共に難産苦で息を引取り、父イサクも恨みの多い過去を残して死別した。1 章の中で 3 人が死別した。死別には男女老少がない。

これは過去の連鎖関係を清算したことになる。ヤコブが晩年に息子ベニヤミンを得たことは大きな幸いであるが、愛妻ラケルを失ったことは不幸な晩年であった。ここから過去のヤコブという名前を呼ばないで新しい名前「イスラエル」で呼ぶようになった。

そして新しい祝福を受けられた。ヤコブがベテルに立ち帰ったことは、彼の生活に一段落を結ぶことになる。

KCCJ の信条・信仰告白の 自覚的継承を求めて

(3) 朴憲郁牧師 (東京神学大学)



1948 年 8 月 15 日に朝鮮半島南側に大韓民国が樹立し、これを支持して同年 10 月 15 日、京都教会で開催された第 4 回定期総会は、在日大韓基督教会と改名し、1950 年 10 月 10 日、京都教会で開催された第 6 回定期総会は憲法改正のために、牧師と長老の 5 人による改正委員会を設けた。その後、毎年改正委員会を開いて改正作業を続けて、礼拝模範・聖經要理問答・勸懲条例等の附則と共に信条と 52 条からなる簡易な改訂憲法本文を、1954 年 10 月 15 日に京都で開催された第 10 回定期総会において採択し、それに基づいて教会は 20 年間歩んできた。しかしその間に、新たに憲法改正の必要性が生じたので、1973 年 10 月の第 29 回定期総会において憲法委員会を組織し、憲法の再改正作業に着手した。継続的な改訂作業を終えて、1978 年 10 月 12 日に大阪西成教会で開催された第 34 回宣教 70 周年記念総会において、信条と改訂憲法 (原理 12 章 52 条。〈補則〉を加えると全 13 章 55 条) が採択された。そこからさらに 20 年後の 1997 年 10 月 23 日、第四 44 回定期総会において、制度・機構の大幅な整備と改革を伴う憲法改正が行われた。だがその際にも、憲法本文に先立つ信条には手をつけることなく、そのまま継承された。

2. 在日大韓基督教会の基礎となった在日本朝鮮基督教会総会—信条と憲法の制定

1947 年 10 月 14 日の第三回在日朝鮮基督教連合会において信条と憲法が制定され、連合会は「在日本朝鮮基督教会総会」と改称して名実ともに組織教会となった。これが、在日大韓基督教会として発展する礎となった。「第三回定期総会要録」の〈後記〉には、一人の憲法委員が感慨深く、当総会で信条が制定された意義と感想を簡潔に述べている。

「今般総会において、最も重大な我が信条と憲法が制定された。この信条は決して我が現代的生命から生じたものではなく、遠くニカイア信条、カルケドン信条、使徒信条、アウグスブルク信仰告白、ハイデルベルク信仰問答、ウエストミンスター信仰告白等、二千年の伝統を継承した我が信仰と祈りから滲み出たものであって、これは世界基督教史に名を連ねる事実となった。我が感慨は実に無量である。伝統的信条と憲法をもった我が総会は、世界の基督教会の列に加わる教会的性格をもって新たに再出発することとなった。これを考えるならば、我々は厳粛な覚悟と使命感によって我が教会を支えなければならない。アーメン」

総会神学校及び加入宣教師 関東地方会で、研修会開催



毎年、各地方会を巡回しながら開催される、2013年度総会神学生・加入宣教師研修会が、総会神学校主催で、3月11日（月）から15日（金）まで、関東地方会で行われた。

この研修会は総会神学校での集中講義とフィールドワークを通してKCCJの設立理念、在日同胞、そして国際化により多様化されている日本社会での福音のありかたについて深く学ぶことができ、まさに“今日の福音を学ぶ神学生”やこれから日本で伝道を始めようとする宣教師にとって最も有意義な研修会であった。

初日は、午後三時から総会長金武士牧師（大阪西成教会）の説教をもって開会礼拝が行われた。その後、一番目の集中講義は総幹事洪性完牧師が「総会の組織・現況について」と題して、KCCJの現状や宣教理念、エキュメニカル性、多様化社会での福音のありかたについて講義した。夕食は、関東地方会からの歓迎・懇親会として励ましと飲食をもって良き交わりの時間がもたされた。

二日目は、金武士牧師が「手ごわい日本人の宗教観」と題して、どれだけ日本で福音を伝えることが大変なのかを教えた。鄭然元牧師は、「総会憲法」を通して教会法のあり方を、朴憲郁牧師は、「KCCJ 宣教理念」を通して在日同胞の現状と今後の宣教課題を集中講義した。特に、この日は総会神学校卒業式（卒業生：権憲勲）と入学式（入学者：ソンヨンヒ）が行われた。

＜5 地方会 定期総会 日程案内＞

- ・ 4月29日：関東地方会（東京教会）、西部地方会（川西教会）、西南地方会（福岡中央教会）
- ・ 5月06日：中部地方会（岐阜教会）、関西地方会（未定）

各地方会の定期総会における総会挨拶は、次のようになりました。
 （関東：趙重來牧師（副総会長）、中部：金武士牧師（総会長）、関西：金武士牧師（総会長）、西部：林英宰長老（副総会長）、西南：洪性完牧師（総幹事）

三日目は、呉寿恵教育主事が「KCCJにおける女性伝道者」と題して集中講義をした。これで理論の研修会を終え、さっそくフィールドワークにでかけた。まずはKCCJの母体となる東京教会を訪問してから、郡山伝道所へ向かった。一同は、被災地の仮設住宅での炊き出し奉仕を通して教会に集うようになった郡山伝道所の日本人聖徒達の話聞き、胸を打たれた。この日の水曜祈禱会は、朴正根牧師と聖徒達の熱い讃美と共に高誠伝道師の説教で行われた。

四日目は、郡山市内から遠くない所にある仮設住宅地で炊き出し奉仕を行いながら、東日本大震災で家族や住まいを失い悲しんでいる人々の辛さを分かち合うことができた。その後、水戸教会（韓在文牧師）へ行き、震災の苦しみの中から励んでいる姿に感動した。さらに、教会員が歓迎と食事を用意したので感動した。その晩は、林鮮亨牧師（東京大井一教会）の説教をはじめ、趙ハンナ伝道師を中心とする恵み深い讃美集会がもたらされた。

最終日（15日、金曜日）は、つくば東京教会（許伯基牧師）を訪問し、留学生と研究員を中心とする教会の特殊な現場を見学し、船橋教会（趙重來牧師）へ行き、信徒達の歓迎とご馳走をいただいた。その後、趙牧師から教会の紹介と励ましのメッセージがあった。これで、4泊5日間の研修会を神様の恵みの内で無事に終えることが出来た。



今年の関東地方会での研修会は、各教会の特徴、特に韓国人ニューカマーや留学生、そして移住外国人、ダブル(混血)の多い国際的な社会情勢の中で宣教的使命を持ち伝道に臨む牧会者と教会を通して在日大韓基督教会のありかたと、今後の課題を考えさせられる良いきっかけになった。

さらに、東北の地で、隣人と共に苦しみを分かち合い、愛を持ってイエス・キリストの福音を必死に伝える同役者がいることをなよりの誇りであった。この研修会のために、祈りと援助で支えてくれた関東地方会と各教会・教会員に感謝し、この全てを祝福して下さった神様に感謝する。

（報告：高 誠）

東日本大震災 KCCJ 募金口座案内

- ・ 銀行：三菱 UFJ 銀行
- ・ 種類：普通預金
- ・ 名義：在日大韓基督教会総会
- ・ 支店：高田馬場支店
- ・ 口座：053-1615275